

□には同じ言葉が入ります。()にひらがなで書きましょう。

(1) かさを □
くぎを □
がびょうを □
とげを □

(2) えきに □
しごとを □
火が □
きずが □

(3) 計画^{けいかく}を □
はらを □
家を □
てがらを □

(4) うでを □
はたを □
たなに □
温度^{おんど}を □

2 次の文の——線部は述語^{じょご}です。それに対する主語^{しゅご}を()に書きましょう。

- (1) これは父が作ったつくえです。()
- (2) 春にはきれいな花がさきます。()
- (3) 青いぼうしをかぶった少女が来る。()
- (4) 冬の山は雪で真っ白だ。()
- (5) 真っ白な雪がふわふわとふりだした。()

3 次の部首の漢字^{かんじ}を下からえらんで書きましょう。

さんずい …… □ □

うかんむり …… □ □

にんべん …… □ □

しんにょう …… □ □

てへん …… □ □

いとへん …… □ □

油	細	代	送	注	道
投	寒	終	倍	打	家

□には同じ言葉が入ります。()にひらがなで書きましょう。

(1) かさを□ □ □
くぎを□ □ □
がびょうを□ □ □
とげを□ □ □

(2) えきに□ □ □
しごと□ □ □
火が□ □ □
きずが□ □ □

(3) 計画^{けいかく}を□ □ □
はらを□ □ □
家を□ □ □
てがらを□ □ □

(4) うでを□ □ □
はたを□ □ □
たなに□ □ □
温度^{おんど}を□ □ □

(たてる) (さす) (あげる) (つく)

2 次の文の——線部は述語^{じょご}です。それに対する主語^{たいご}を()に書きましょう。

- (1) これは父^{ちち}が作ったつくえです。()
- (2) 春にはきれいな花^{はな}がさきます。()
- (3) 青いぼうしをかぶった少女^{しょうじょ}が来る。()
- (4) 冬の山^{やま}は雪^{ゆき}で真っ白だ。()
- (5) 真っ白な雪^{ゆき}がふわふわとふりだした。()

3 次の部首^{ぶしゅ}の漢字^{かんじ}を下からえらんで書きましょう。

さんずい …… 注
うかんむり …… 家
にんべん …… 代
しんにょう …… 道
てへん …… 打
いとへん …… 細

終 投 送 倍 寒 油

油 細 代 送 注 道
投 寒 終 倍 打 家